

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590109173		
法人名	社会福祉法人 夢の会		
事業所名	グループホーム やすおかの里		
所在地	山口県下関市安岡町7丁目7番1号		
自己評価作成日	平成30年12月17日	評価結果市町受理日	令和 1年 7月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成31年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の周辺は、住宅街で静かな環境です。敷地は広く、事業所内も明るく広い空間があり、同法人のグループホームの利用者同士の交流が持てる環境になっています。毎朝、申し送り時に、職員全員で作った理念を唱和し初心を忘れることなく、利用者一人ひとりの思いを受け入れ、利用者本位の支援を目指しています。食事は3食とも、事業所で作っています。買い物、調理、配膳、食器片付け等、それぞれの人ができる事を分担して楽しみながら行っています。家庭的な雰囲気の中、利用者のできる事、できない事を見極め、できる事が継続でき、自信となるように支援しています。地域の方からの、生花、野菜等の差し入れ、子供さんの訪問があります。利用者の皆さんも、来所を心待ちにしておられ、地域の中で穏やかに1日を過ごされています。法人全体研修は、同じテーマで2回あり、参加しやすい環境の中、職員のスキルアップを図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員全員で検討されてつくられた事業所独自の理念を基に、利用者との信頼関係が築かれるように、職員間の関係づくりや利用者の笑顔を引き出す声掛けなどを大切にされ、理念を日々意識づけられて、実践につなげておられます。自治会に加入され、自治会長から公民館行事(カラオケ、フラダンスなど)の声かけがあり、利用者は外向いて交流しておられる他、通学時の子どもたちと仲良くなり、自治会長の協力を得て子どもたちの絵を事業所に飾るようになったり、一緒にボランティアの手品を楽しまれています。フルート演奏会や雑技団のビデオ鑑賞などを地域住民と楽しめたり、子どもたちとの交流が深まることで、保護者の協力を得て、子供神輿の立ち寄りやハロウィンを利用者と一緒を楽しまれるなど、地域とつながりながら利用者が当たり前の暮らしを続けられるよう地域住民との交流に積極的に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所理念は、職員全員で検討して作り、事業所内の目につくところに掲示している。朝礼で、毎日唱和し実践につなげている。</p>	<p>「やさしいえがお・すこやかな日々・おだやかな気持・かぞくのように」という事業所の理念をつくり、事業所内に掲示している。利用者一人ひとりの思いを大切に利用者本位の支援を目指すことを職員間で話し合い、朝礼時に理念を唱和して共有し、実践につなげている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会に加入しており、行事は声掛けをして頂き参加をしている。地域の方からの、生花、野菜の差し入れがある。日常時の散歩等にて地域の方からの声掛けなどにより交流を深めている。</p>	<p>自治会に加入し、自治会だよりや回覧板が回ってくる。自治会長から公民館行事(カラオケ、フラダンス、凧揚げ)の紹介を受け、利用が参加し、交流している。通学時に事業所の前を通る子どもたちと挨拶をすることで親しくなり、子どもたちが事業所に立ち寄りようになり、自治会長の協力を得て、子どもたちの絵を事業所に飾るようになった他、日曜日や夏休みには利用者と子どもたちが一緒にボランティアの手品を楽しんだり、おやつを一緒に食べるなどの交流をしている。事業所で開催したフルーツ演奏会や雑技団のビデオ鑑賞には多くの地域の方の来訪があり、事業所を知ってもらう機会になっている。保護者からの声かけで子ども会の子ども神輿の立ち寄りやハロウィンと一緒に楽しむなどで交流が深まっている。地域の人から生花や野菜の差し入れがある他、散歩時には挨拶を交わしているなど、地域の一員として日常的に交流している。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議を通じ状況報告を行いながら、支援についての意見交換を行っている。施設見学の希望は随時受け入れている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義について、職員に説明を行い職員一人ひとりが自己評価を行う。 評価を通じ、日々の支援を振り返り、質の向上を目指したい。	管理者はガイド集に基づいて、評価の意義について説明し、職員一人ひとりに自己評価をするための書類を配布、職員が大切と思う項目や理解できる項目に書き入れた後、話し合い管理者がまとめている。評価を通して日々の振り返りをするとともに、質の向上に向けての話し合いをしている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。状況報告、行事報告、意見交換を行っている。地域行事への参加も増やし交流を図りたい。	自治会長、民生委員、家族、地域包括支援センター職員、法人事務長の参加を得て、2ヶ月に1回開催している。利用者状況、事故報告、行事予定・報告、避難訓練について報告をし、意見交換をしている。緊急時の避難場所として高齢者を事業所に受け入れることや、備蓄や地域住民参加の避難訓練に取り組むなどについて話し合いをしている。	・メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方と、運営推進会議で情報交換を行い連携を図っている。	市担当者とは、運営推進会議の議事録や事故報告書などの提出時に出向いて不明な点を相談したり、情報交換をしているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換をしている他、エンディングノートやオレオレ詐欺の勉強会に参加しているなど、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を設置している。身体拘束についてすべての職員が正しく理解して支援ができるように研修を行っている。スピーチロックについては、気づいた時に意見を出しあい不適切な支援にならないようにしている。	身体拘束適正委員会を設置し、年4回開催している。身体拘束について年2回の法人研修で学び、職員は、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出したい利用者とは、職員と一緒にでかけて気分転換できるように支援している。スピーチロックに気がついた時には、管理者が指導をしている他、職員間でも話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修の中で高齢者虐待について学ぶ機会がある。一人ひとりが日々の支援を振り返り、適切な支援を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、事業所内には、成年後見制度に該当される利用者はいないが、権利擁護に関する研修を取り入れ学ぶ機会がある。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書、重要事項説明書については十分な説明をし、不安や疑問点があれば納得していただくまで説明を行い理解を図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、相談や苦情の受付体制や処理手続きについて家族に説明している。また、その他、意見要望は面会、電話等で受け入れられている。	契約時に相談、苦情受付体制や処理手続きについて家族に説明している。面会時や年2回の家族会、電話、月1回の事業所だより送付時などで、家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。職員は日常支援の中で利用者の思いや要望等を聞き取るように努めている。ケアに関する要望にはその都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員ミーティング、申し送り時等に意見や提案を聞くように心がけている。意見、提案等はミーティング時に、職員全員で考えている。	代表者や管理者は、月1回の職員ミーティング時や申し送り時などで意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者は日常業務の中でも意見や提案を言いやすくするようにして、話し合いをしている。業務の一日の流れについての提案や勤務体制の希望について話し合い、職員の意見や提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所を訪問し、利用者、職員に声掛けを行い話を聞く時間を設けられている。常に職場環境条件の整備に努められている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修は毎月、同じテーマが2回あり参加しやすく、全員が参加できている。施設内研修は月1回行っている。研修後も議事録を回覧することにより周知できている。	外部研修は、職員の希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は復命をして資料を回覧し、いつでも閲覧できるようにしている。今年度はグループホーム協会の研修に参加している。法人研修は月2回(同じテーマ)あり、全職員が参加できるように支援して、介護技術、高齢者虐待、接遇マナー、認知症等を実施している。内部研修は年間計画を作成し、感染症、脱水、熱中症、接遇マナー、身体拘束等について実施している。新人研修はマニュアルに基づいて、管理者や先輩職員の指導の下、日常業務の中で働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に参加し情報交換を行っている。法人内のグループホームの管理者会議で勉強会、意見交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に、ご家族に基本情報シートに、本人の今と過去の状態を記入していただき参考にしている。本人の思いに添ったその人らしい支援ができるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の思いをしっかりと聞き、不安な点や要望を聞きながら信頼関係の構築に努めている。来所はご希望時間で調整し、話しやすい環境を作っている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境が変わる中、本人と家族とを関わりをしっかりと持ち、優先順位をつけ必要性のあることから対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員本位な思いにならないように、入居者に関り、関りの中から本人の思いに添った支援を心掛けている。人生の先輩から学ぶ姿勢で喜怒哀楽を分かち合える関係性を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話連絡時、施設での様子や体調等をお伝えしている。行事の参加も依頼し共に支えあう機会を作っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人の面会時は居室にテーブルと椅子を用意し、ゆっくりくつろげる環境を作っている。暑中見舞い、年賀状で気持ちを伝え関係が途切れないように支援している。	家族の面会や孫、ひ孫、知人の来訪がある他、暑中見舞い状や年賀状の支援や電話の取次ぎなどの支援をしている。家族の協力を得ての馴染みの美容院の利用、一時帰宅、外出(カラオケなど)、外泊、墓参りなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビングで過ごし、利用者同士でコミュニケーションがとれる環境を作っている。職員も一緒に関り孤立を感じ不安にならないように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、家族からの相談を受け入れ、他のサービス関係者と連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報、アセスメントシートを活用し利用者の言葉・行動を記録に残し、その思いを把握し本人の思いに添った支援ができるよう検討している。	入居時には、基本情報シートを利用して生活歴、趣味、家族歴などを記入してもらい、把握につとめている。利用者の日常生活の状況等は24時間生活シートやアセスメントシートに記録している他、利用者の言動や思いなどについては「様子観察記録ノート」に記録して職員間で共有して、思いや以降の把握に努めている。困難な場合は、家族の協力を得て職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族に基本情報シートの記入を依頼し情報収集をしている。また面会時にも情報収集を行い、今までの生活に近く、本人らしい生活ができるように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、健康チェック(バイタル、食事量、排泄状況など)を行い日々の心身状態を把握し小さな変化を見逃さないようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、モニタリングを行っている。毎日の朝礼時にも、変化のある利用者の方への支援の意見交換をし情報を共有している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、利用者に応じて随時カンファレンスを開催して、介護計画を作成している。毎朝の朝礼時に目標をチェックして、月1回のモニタリングを行い、随時に見直しをしている。利用者の状態の変化がある時には、その都度見直しして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体面とは別に本人の言葉、行動を様子観察記録に残している。また、その時の周囲の状況など記録で表現が難しいものは申し送りをし情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアによるレクリエーション、同法人グループのグループホームの利用者と交流を持ち、楽しみを持てるように工夫している。往診以外の受診も対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で意見をいただき、地域に参加できるようにしている。地域資源把握とともに地域の中でその方らしい生活を支援していきたい。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医とし往診があり、緊急時の受診にも対応している。訪問看護ステーションより週1回、法人からの看護師が週2回来訪し健康チェックをしている。	事業所の協力機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療があり、受診情報は口頭で伝えている。他科受診については家族が対応している。受診結果は面会時に家族に伝えている。緊急時や突発時には電話で連絡している。職員間では受診結果を申し送り簿に記録し、共有している。訪問看護ステーションより週1回、看護師の来訪がある他、訪問看護師の週2回の健康チェックがある。夜間、緊急時には24時間体制の訪問看護と協力医療機関との連携を取り、主治医の指示を受けて対応するなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェックを毎日行い、心身の小さな変化を見逃さないようにしている。日常の関わりの中での情報や気づきは、随時報告をしている。訪問看護は24時間体制で緊急時にも対応できる。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者と情報交換、連携をとり早期退院に向けて取り組んでいる。状態が変化した場合も家族、病院関係者と相談しながら方向性を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時「重度化した場合における指針」を家族に説明し事業所の方針を伝えている。重度化した場合は、家族、医師と相談し方針を決めていく事としている。	契約時に「重度化した場合における指針」を基に、事業所として対応できるケアについて家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医や看護師と話し合い、医療機関や他施設への移設などについて話し合い、方針を共有して取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ひやりはつと、事故報告書に記録を残し職員会議で振り返りを行い、再発、事故防止に取り組んでいる。全職員が救命講習の受講をし、事故発生時備えたい。	事例が生じた場合はその日の職員間でヒヤリハット、事故報告書に状況把握、原因、対応策を記録し、朝の申し送り時に話し合い、確認、回覧して共有している。月1回の職員会議で再検討をして、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる他、介護計画に反映させている。利用者の急変や事故発生時に備えて、職員は救命講習、緊急時の対応、応急処置、感染防止、止血などについて学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。また、運営推進会議等で自治会の協力が得られるようにご案内している。	年1回、消防署の協力を得て、消火訓練、通報訓練、避難訓練をしている他、事業所独自で通報訓練、初期消火訓練を実施している。運営推進会議で自治会長や他のメンバーと協力体制について話し合いをしているが、構築までには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	指示、命令にならないように丁寧な言葉遣いを心掛けている。語気、顔の表情も気をつけ、思いやりのある言葉遣いを目指している。個人情報の取扱いは周知徹底している。	新人研修や内部研修で接遇マナーを学び、職員は理解をして誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の管理や取り扱いに留意するとともに、守秘義務についても遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりのあった声掛け、関りを持ちながら、利用者が、思いや希望を言いやすい、環境作りを行っている。言葉で表現できない方の表情や動作も見逃さないようにし、自己決定の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位のペースにならないよう、その日の心身の状態を見極め、無理せずに声掛けをしながら、希望に沿った支援をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回、訪問理容があり、希望の方はカットをされている。季節ごとに衣替えを行い、季節に応じた服装の声掛けをしている。適宜、ダンス、クローゼット内の整理も行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食とも、事業所で作っている。買い物、調理、配膳、片付け等、それぞれの人が参加をされている。一緒に献立を考える機会もある。誕生日はケーキ作りにも参加していただき、作る楽しみ、食べる楽しみも支援できている。	利用者の希望を聞いて、職員間で話し合い、献立を作成している。利用者と一緒に毎日買い物に行き、形状の工夫などして三食とも事業所で調理をしている。利用者は下ごしらえ、下膳、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ食卓で趣味の話などの会話を楽しみながら同じものを食べている。季節の行事食(おせち、クリスマスなど)、おやつづくり(ホットケーキ、どら焼きなど)の他、和菓子の取り寄せ、外出時の弁当づくり、誕生日のケーキづくり、外食(回転寿し)等の他、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録に残している。減塩、食事形態(きざみ等)にも個別に対応している。水分確保のため、声掛けをしながら、こまめな補水を支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯の洗浄、歯ブラシ、コップが不衛生にならないように定期的に漂白をしている。磨き残しがないように職員が確認し、できないところはお手伝いし清潔保持を行っている。同一法人の歯科医師より口腔衛生管理にかかわる助言を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を参考にし、排泄パターンを把握し声掛けをしている。排泄の失敗時、羞恥心への配慮を忘れず声掛けを工夫している。居室にトイレの設置があり、プライベートは確保できている。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握して一人ひとりに応じた声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分摂取と適度な運動を心掛けている。排便チェック表をもとに排泄パターンを把握するようにしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の状態に応じて入浴、清拭、足浴を行い清潔保持を保っている。入浴剤を使用し、爽快感リラクゼーションを図っている。入浴拒否の方には、無理することなく日程変更、言葉かけの工夫をして対応している。	入浴時間は14時から16時の間、希望に応じてゆっくりと入浴できる支援をしている。体調に応じて清拭、足浴等の対応をしている他、入浴したくない人には無理強いをしないで声かけの工夫や職員の交代等の工夫をしている他、入浴剤を使っての気分転換など、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を継続し、心身の状態により自由に休息できている。安眠ができるように、室内の空調、照明を個別で対応し、その方にあった室内環境を提供している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書は個別にファイルしている。薬の処方、用量が変更になった場合は、申し送りで情報を共有し、服薬後の様子観察を行い主治医に報告している。また、薬に関することは薬剤師に連絡し確認をしている。24時間対応できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物、食事の用意、洗濯物干し、掃除、花の水やり等、今までされていたことを、それぞれの人ができる事をされている。一人ひとりのできる事、できない事を見極め、無理のない参加をして頂いている。	テレビ視聴(時代劇、相撲、のど自慢、朝の連続ドラマなど)、ラジオを聴く、トランプ、カルタ、オセロ、簡単な調理、味見、おにぎりづくり、下ごしらえ、食器洗い、玉子焼きづくり、口腔体操、DVD体操、テレビ体操、山口弁ラジオ体操、盆拭き、テーブル拭き、チラシのゴミ箱づくり、習字、洗濯物の取り入れ、洗濯物たたみ、花の水やり、掃除、編み物、壁面づくり(ちぎり絵など)、折り紙、算盤で計算、生け花、間違いさがし、ビデオ鑑賞、フルーツ演奏、ボランティアの手品など、気分転換や楽しみごと、活躍できる場面づくりなどの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺の散歩や外出を行っている。水族館、ドライブ、外食等に支援も行っている。家族に協力していただき、地域にある馴染みの美容院の利用も継続できている。	周辺の散歩、買い物、小学校の見学、四季の花見(菜の花、桜、コスモス、紅葉)、水族館、公民館のカラオケ、手紙の投函、外食の他、家族の協力を得ての馴染みの美容院の利用、一時帰宅、外泊、外出、墓参り、外食など戸外に出かけられるよう支援に努めている。	・外出支援の工夫
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金がある事で安心される方は、家族の希望により、事業所にて預り金として対応している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、状況に応じて対応している。暑中見舞い、年賀状を一緒に作成し、近くのポストに投函している。直筆の名前は喜ばれており、家族や知人との繋がりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、湿度、温度は一定を保てるよう調整をしている。花を生けたり、音楽をかけたりして居心地のよい場所づくりをしている。壁面飾りも利用者と一緒に作成し季節感を感じられるように工夫している。	共用空間は広く、大きな窓から入る日射しで明るく、窓辺には観葉植物やテレビの前には大きな3脚のソファが配置されていて、利用者がくつろげるコーナーとなっている。キッチン是对面式でご飯が炊ける匂いや調理をする音が聞こえてきたり、利用者や職員の笑う声などがあふれて、心地良い時間が流れている。壁面には季節のちぎり絵や折り紙などの作品や習字が飾られている他、日めくりや手づくりのカレンダーが飾っており、和やかな空間となっている。温度、湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせる空間となっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの食事テーブルの位置を工夫したり、ソファの位置も変えたり気分転換が図れる工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人の思い入れのある物、使い慣れた物は持ってきていただくように声掛けをしている。仏壇や家族の写真も置き、これまでに住んでいた環境に近い居室作りをしている。	寝具、タンス、置き時計、算盤、仏壇など使い慣れたものや大切なものを持ち込んでいる他、利用者本人の作品(ぬり絵、折り紙、習字など)や手づくりカレンダー、家族の写真などを飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで安全に歩行移動ができ、リビングも広く室内ウォーキングも対応している。居室にもトイレがあるが共同トイレもわかりやすく表示をしている。安全に生活できるようにソファ、椅子等の配置も工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームやすおかの里

作成日: 令和 1 年 7 月 26 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の実施	職員全員が実践力を身に付けスキルアップを目指す	<ul style="list-style-type: none"> 救命救急講習会に参加し実技を身に付ける 内部研修の応急処置方法も継続して行く 	1年
2	36	地域との協力体制の構築	地域の方との避難訓練を実施し協力体制を築く	運営推進会議等で意見交換を行い協力が得られるように依頼をしていく	1年
3	5	運営推進会議、メンバーの拡大	新規参加者の依頼をする	地域行事等に参加しながら地域の方との交流を深めていく(グループホームを知っていただく)	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。